

＜今日の説教のポイント マタイによる福音書 26 章 57～68 節＞
他の聖書の箇所を読んで深い理解に導かれる、まさに聖書らしい箇所！

①(57-63) 罪無き者を必死で罪ありにしようとする人間の姿。

57-63 節で福音書記者マタイが伝えたかったことは、「罪無き者を必死で罪ありにしようとする人間の姿」とまとめられるでしょう。私たちとは関係ない？いいえ、聖書に出て来る人間は皆、私たちの代表です。私たちの中にも潜む姿を考えなければなりません。

また、イエス様は「黙り続けておられた」(63)とあります。なぜか？イザヤ書 53 章 7 節前後を読むと、一気にその意味が分かります。「彼が担ったのは私たちの病、彼が負ったのは私たちの罪」(53:4)、「その私たちの罪をすべて主は彼に負わせられた」(53:6)。イエス様の誕生から何百年も前に語られた預言者の言葉です。キリスト教の中心テーマ、「神様ご自身が、私たちが持つどうしようもない醜さや弱さや欠けを、自分の肩に負って下さる救い主を送って下さった」ということに私たちの目を開かせてくれるのは聖書自身なのです！

②「それはあなたが言ったことです」(64)、とはどういう意味？

イスラエルでは神様の名を直接語ることは避けられていました。ですから、「お前は神の子、メシアなのか」(63)と言われて、イエス様が「それはあなたが言ったことです」(64)と答えたのは、「あなたが口に出して言った、その通りだ」、すなわち、「自分が神の子、メシア(救い主)だ」と告白されたのです！ それに続く、「あなたたちはやがて、人の子が全能の神(上に記した理由で、原文には「神」はない)の右に座り、天の雲に乗って来るのを見る」(64)も、詩編 110:1 とダニエル書 7 章 13 節を読むと、自分こそが神の子、メシアであると言われていたことがよく分かります(マタイ 22:41-46 参照)。

③ひどい仕打ちを忍ばれるイエス様。それこそがメシアのしるし！

人々は、「イエスの顔に唾を吐きかけ、こぶしで殴り、ある者は平手で打ちながら、『メシア、お前を殴ったのはだれか。言い当てて見ろ』と言った」(67-68)とあります。①と②からもう分かるはずですが、辱めを忍ばれるお姿にこそ、私たちの救いの根拠があるのです！ 私たちは、この方とつながるときに、本当の人生を生きていけるのです！